

このニュースレターは、EPA(経済連携協定)及び、外国人看護師・介護福祉士に関する全国ニュースをダイジェストでまとめたものです。

**○日越EPAの看護師・介護福祉士候補の募集開始、  
研修費用等は無料(2020/9/23 アセアンポータル)**

ベトナムの労働・傷病兵・社会問題省 (MOLISA) 海外労働管理局 (DOLAB) は、日越経済連携協定 (EPA) に基づく看護師候補者・介護福祉士候補者の募集を開始した。

日本政府とベトナム政府の間では、日越経済連携協定を2009年に締結しており、日本政府はこの枠組みに基づいて、看護師・介護福祉士国家資格の取得を目的として、看護師候補者は最大3年間、介護福祉士候補者は最大4年間の日本への入国・滞在を認めており、ベトナムからは平成26年度から候補者の受入れを行っている。なお、同様の枠組みで日本はインドネシアからは平成20年度から、フィリピンは平成21年度から候補者の受入れを行っている。

今回は、ベトナムの労働・傷病兵・社会問題省・海外労働管理局から、第9陣候補者の募集が開始された。ベトナム側の発表によると、これは日本で働きたいと願う看護卒業生を支援する非営利プログラムであり、看護師候補者・介護福祉士候補者として日本に来日を希望する人は、日本側が主催する1年間の日本語研修を受講し、日本語能力試験 (N3) を受験する予定となっている。今までの第1陣から第6陣までは1,109名が訪日しており、第8陣はベトナムで日本語研修を受講している。なお、健康診断などの諸経費を除いて、訪日前研修の授業料や渡航費用などの一切の費用は無料となり、無料の宿泊施設と食事が提供されるとともに、生活費も提供される予定である。

**○インドネシア人介護福祉士が就労 人材確保にコロナの影響(2020/9/22 朝日新聞)**

埼玉県内の介護施設で今年、インドネシア人の介護福祉士3人が正規職員として働き始めた。人手不足に悩む現場と留学生をつなぐ民間プログラムの1期生だ。

貴重な担い手となっているが、コロナ禍による外国人の入国制限が今後の人材確保に影を落としている。

11日、川島町の介護老人保健施設「平成の森」にウルル・アルバブさん (27) が出勤すると、歩行器で廊下を歩いていた入所者の女性の顔が輝いた。別の入所者の男性もウルルさんを見つけると車いすで駆け寄り、にこにこしながら手を握る。ウルルさんは記者を見て、「みんなが名前を呼んでくれるのがすごくうれしい」とはにかんだ。

「平成の森」では今年、日本の介護専門学校を卒業し、介護福祉士の国家資格を取得したウルルさんらインドネシア人の男女3人を正規職員として迎えた。2018年にスタートした「外国人介護留学生奨学金プログラム」の1期生だ。

ウルルさんは「元々、子どもとお年寄りが大好き。日本語は大変だけど、毎日すごく楽しい」。総師長の林晴美さん (53) も「驚くほど自然に溶け込んでいる。入所者も『新しい職員さんだ』『若い人だね』と普通に受け入れてくれて、国籍の壁を感じさせない」と話す。

プログラムを作ったのは医療系の人材派遣などを手がける「メディカルシステムサービス」(本社・東京都新宿区)。介護施設を運営する法人が日本語学校や介護専門学校と連携し、正規職員としての採用を見込んで現地で面接。優秀な人材を留学生として日本に呼び、学費は貸与奨学金として法人が肩代わりし、卒業後5年の就労で約半額が返済免除となる仕組みだ。

就労の条件は、専門学校を卒業して介護福祉士の資格を取得すること。介護福祉士になった外国人は「介護」の在留資格を得ることができ、在留期間の更新回数に制限がないため、貴重な人材になる。

同社の担当者の福原亮さん (46) は「相手の文化や価値観を理解し、長く働いてもらえる環境を地域ぐるみで作るのが大事。外国人にそっぽを向かれる職場は、いずれ日本人にもそっぽを向かれる。外国人材の受け入れが従業員全体の満足度向上にも目を向けるきっかけにもなれば」と話す。

プログラムに参加している与野学院日本語学校（さいたま市大宮区）の谷一郎校長は「日本語学校を、ただ語学を教える場所ではなく、留学生と地域社会をつなげる場として機能させたい」。留学準備で生じた多額の借金返済のために、日本で不法就労に走ってしまう留学生もいるといい、「学費の心配をせず勉強できるのは留学生にとってもメリットだ」と話す。（後略）

### ○介護事業所 7割が「人材不足」(2020/9/11 高齢者住宅新聞)

介護労働実態調査 外国人採用は前年比 2 倍超  
厚生労働省が所管する公益財団法人介護労働安定センター（東京都荒川区）はこのほど、毎年 10 月に実施している「介護労働実態調査」の 2019 年分の結果を公表した。回答した全国 9126 事業所のうち、介護職員の不足感に関して「大いに不足している」「不足している」と答えた事業所は 69.7%にのぼり、同調査では過去最悪の結果となった。

今回の調査では、従業員全体の不足感は全体で 65.3%で 18 年度 (67.2%) よりも低下したが、介護職員 7 職種（訪問介護員、介護職員、サービス提供責任者、看護職員、生活相談員、介護支援専門員、PT・OT・ST など）に関しては 69.7%の事業所が不足感を訴えた。特に訪問介護員については、依然 81.2%が「不足」と回答。4 年連続で 8 割超という深刻な状況が続いている。

職員不足の理由では「採用が困難である」と回答した事業所が 90.0%だった。具体的な理由としては「同業他社との人材獲得競争が激しい」が 57.9%、「他産業に比べて労働条件等が良くない」が 52.0%、「景気が良いため、介護業界へ人材が集まらない」が 40.9%だった。

外国籍労働者を受け入れている事業所は、18 年の 2.6%から 6.6%に増えた。外国籍労働者の働きに関する評価では、受け入れている事業所の方が「職場に活気がでる」「利用者が喜んでいる」などの評価が受け入れている事業所よりも高く、受け入れに伴う不安感は低いことが判明した。

採用時研修について、「受けた」との回答は正規職員が 48.9%、非正規職員が 39.7%で、いずれも半数を下回った。内容別には「安全衛生研修」が最も多く、正規職員が 69.6%、非正規職員は 70.1%だった。

調査の実施が昨年 10 月時点で新型コロナ禍前だっ

たこともあり、報告書では「介護業務においては必要不可欠な研修であるため、介護業務に従事する前に研修を実施することが重要」と強調している。

### ○介護を描く映画、大反響で続編「コロナ禍の今こそ届け」(2020/9/4 朝日新聞)

介護現場で働く新人介護福祉士らの奮闘や葛藤を描いた映画「ケアニン」が、息の長い人気を集めている。劇場公開が始まって 3 年たつが、自主上映会は国内外で 1200 回を超える。第 2 弾が今春に公開され、製作側は各地での上映会開催を呼びかけている。

ケアニンは介護・医療従事者をさす造語。介護への親しみや魅力を多くの人に感じてもらえる映画をつくるにあたって、映画プロデューサーの山国秀幸さん（53）が考えた。

2017 年に公開された第 1 弾の「ケアニン～あなたでよかった～」は、小規模施設で働く主人公の新人介護福祉士の大森圭が認知症のお年寄りと向き合う物語。山国さんが介護施設に取材し、原作を手がけた。

劇場公開された後に製作側が自主上映会の開催を募ると、介護施設や福祉系大学などが手を挙げた。「介護職の初心を思い出した」「仕事への誇りと意欲を学生が持ってくれた」などと反響が寄せられた。口コミや SNS で評判が広がり、台湾や香港でも上映された。約 3 年間で 1263 回、延べ約 11 万 5 千人が鑑賞した（8 月現在）。

予想を超える反響を受け、山国さんは第 2 弾「ケアニン～こころに咲く花～」を企画。第 1 弾と同様に介護現場の現実に近づけようと介護従事者に取材し、脚本づくりにも協力してもらった。昨年 5 月に製作が始まり、今年 4 月から全国の劇場で公開されている。（後略）

一般社団法人  
外国人看護師・介護福祉士支援協議会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-1  
VORT 半蔵門ビル 6 階  
TEL : 03-6666-8163 FAX : 03-3221-4717  
E-mail : [zen-kangokaigo@jiaec.jp](mailto:zen-kangokaigo@jiaec.jp)

担当：伊藤、小中  
©一般社団法人  
外国人看護師・介護福祉士支援協議会  
無断複製・転載を禁ず